



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年1月8日) 9:30~12:00 (曇り)

参加者 一般:5名(うち子ども2名)

指導員:3名

## テーマ 「木の芽を見てみよう」

今の時期は木の葉が落ちて、樹形や枝ぶりがよく分かります。観察会の前半は、木を眺めて回りました。

まずはコブシが数本生えている場所で、樹形の違いを観察しました。葉が付いていた時には気づきませんでした。枝が横に広がっている木と上に伸びている木がありました。葉が出たら同じコブシかどうか確認してみたいと思います。

葉が落ちると木の上にあるもの、枝に付いているものがよく見えるようになります。昔はミノムシがぶら下がっている姿が普通に見られましたが、一時期寄生バエの影響でほとんど姿を消していました。近年やや復活しているようで、サクラの木の枝にわずかにチャミノガが見られ、枝の先端には5ミリ程度のミノムシの幼虫もぶら下がっていました。

また、トウカエデの枝にお椀形の鳥の巣があり、見ると、木の枝のほか白いビニール紐状の材料も巣材として使われていました。

この時期の定番の冬芽と葉痕については、サクラの仲間やシンジュの枝に近づき、芽の大きさや形状の差と、枝のどの部分ついているのか気をつけて観察しました。

さて、先月の観察会で川原に掘られた穴を見つけました。その後、哺乳類に詳しい人に問合せ、足跡などからキツネのものだと教えてもらいましたので、今日も見に行きました。回りには足跡も残っており、今でも周りに出没しているようです。途中で出会った公園の職員の方が、夜間、公園警備のガードマンが歩いているキツネを見かけることがあるという話をしてくれました。

その後、園内に戻ってエノキの樹の下でゴマダラチョウの幼虫を探して落葉めくりをしました。落葉が多いので探すのは大変ですが、幼虫は幹を伝って降りてくるので、幹の近くを中心に探し、10頭程を見つけることができました。落葉の下からは、ほかにもムアシロホシテントウ、ツヤアオカメムシ、ヨコツナサシガメなどが見つかりました。

天気予報では午前中から雨が降り始めるとのことでしたが、幸運にも降られることなく観察会を終えることができました。

(報告: 齋竹)

### <その他観察できたもの>

鳥: ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、ヒヨドリ、モズ、キジバト、エナガ、シメ、カワラヒワ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボロガラス



(コブシの枝ぶり)



(葉が落ちてわかる鳥の巣)



(ムアシロホシテントウ)



(観察会のようす)